覚えている、気づいている

遥　夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
覚えている、気づいている

【Ｎコード】
Ｎ３９３４ＢＡ

【作者名】
遥　夏

【あらすじ】
ひとは、覚えている感動を凌駕するような感動に、新たに出会える日はくるのでしょうか。

初めて自分の文章が
活字になった日を覚えている。
いまはなき、
ボーイズラブアンソロジーの
お手紙コーナー。
当時、中学生だった。

初めて自分のイラストが
掲載された日を覚えている。
「いいセンスしてるよ」と、
さくらももこ先生に
コメントをもらう。
当時、高校生だった。

初めて自分の姿が
ビデオ画像として映った日を覚えている。
白い肌、薄い胸、
ぽよぽよのおしりをさらして
困惑した表情。
当時のぼくなりの演技だった。

初めて自分の姿が
テレビの電波をとおして映った日を覚えている。
やつれた顔で、偉そうに
人生の成功を信じて疑わない
踊らされた若造。

当時、ぼくは占い師だった。

初めて自分の文章で
稿料をいただいた日を覚えている。
いまはなき雑誌の
いくつかの担当ページは
いつも、てにをはを直された。
当時、ぼくはライターだった。

初めて自分の作品に
ファンレターが来た日を覚えている。
子どもの字、
「だいすきです、おとうとより」
字の書けない弟に代わった兄の頑張り。
当時、ぼくは絵本作家だった。

覚えてしまった感動は
忘れられないあの時は
同じことがもう一度起こっても
そのときほど新鮮に
ぼくの琴線を叩かない。

それでもあのときの
心臓の音、脳波のゆらぎ、アドレナリンの味、
忘れられないからこそ
もう一度と願う。

小学生で気づいてしまった
自分の正しさ。
相手の正しさを受け入れない自分。

中学生で気づいてしまった。
自分の世界。
まるで自分だけが心をもっているかのよう。

気づいてしまった、気づいてしまった。
自己顕示欲と自己嫌悪。

なにもできない人の身で
存在することをだけ。
ぼくはここにいる、と。
ぼくは、ここにいると。

初めて
教壇にたった日を覚えている。
自己顕示欲を満たすだけ。
満ちて自己嫌悪に浸るだけ。

気づいてしまった、気づいてしまった。
ぼくはここにいてはいけない、と。
ぼくは、ここにいてはいけないと。

ゆうゆうと流れるのは余生。
たいくつな時間。
大好きなひとを想う時間。

ぼくの頭の中から
幸せになる義務が消えて
ぼくの頭の中から
幸せにする責任が消えて

ぼくの頭の中に
自己満足を目指す輝かしい光がともったのに
ぼくは気づいている。

面倒なことに挑戦すれば
たいくつが紛れて、
面倒なことに身をおけば
ひとしおに達成感がある。

ぼくは、ここに、いる。
それに、気づく。

（後書き）

結構真面目に実話詩を書いたのは久しぶりのことであります。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3934ba/

覚えている、気づいている

2012年1月10日08時46分発行